

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

かがやく えがお さいごまで やりぬく かつらっこ
 ○自ら主体的に取り組み、自分の考えを深められる子どもを育てます。(知)
 ○自分と友達を大切に、あたたかい子どもを育てます。(徳)
 ○命と体を大切に元気な子を育てます。(体)
 ○地域の人や自然を大切に、共に生きる子どもを育てます。(公)
 ○様々な人々との交流を通して、よりよく生きる子どもを育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

問題発見・解決能力
コミュニケーション能力

具体化した資質・能力

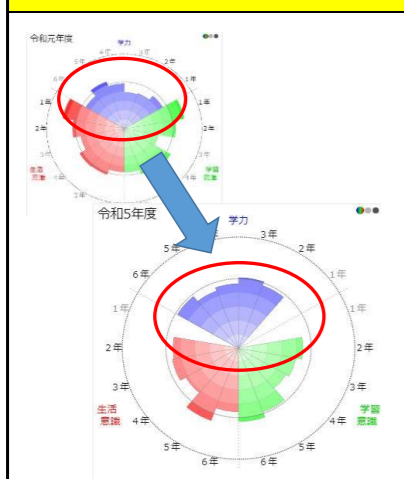
中期取組目標

学校教育目標の実現に努め、魅力のある、信頼される学校づくりを推進します。
 ・学習の楽しさが実感でき、児童の考えや表現を大切に授業づくりを推進し、学力を向上させます。
 ・個に応じた支援を充実させ、安心・安全で豊かに学べる教育環境を整えます。
 ・学校・家庭・地域の連携を深め、様々な人との関わりを通して社会性や温かい心を育てます。
 ・職員の指導力を高め、「チーム桂台」として活力ある学校運営組織の確立を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	低・中・高学年ごとに研究・研修を充実させ、教職員一人ひとりの授業力向上を図る。重点研究テーマを「じっくり考え学び合い自分の「学び」を実感できる子の育成」とし、算数科の時間を中心に論理的に考えたり、筋道立てて説明したりする力を育成し、互いの考えを聞き合い、認め合う活動を目指していく。「共同思考」を研究の中心として協働的な学びを充実させる。
担当	学習評価ウェブ委員会

学力向上に関わる本校の状況



学力については市の平均を下回っている学年が多い。しかしながら、ここ5年間の経過をみると、若干ながら学校平均が向上し市の平均に近づいてきている。重点研究を中心に教職員全体で組織的に「じっくり考え学び合い自身をもって課題に取り組む子の育成」をめざしていきたい。

今年度の目標

じっくり考え学び合い自分の「学び」を実感できる子の育成
 ～主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり～

目標を実現するための具体的行動プラン

組織づくり
①高学年における社会科、理科などの教科担任制 ②特別支援教育(学習室での学習支援等) ③理科支援員・司書教諭との連携した指導 ④読書活動の充実(読み聞かせ、学級読書の時間の設定) ⑤ICT機器を活用した相互学習の充実
研究研修体制の充実
①重点研究会(R4度算数)を通じた指導方法の研究 ②メンターチームによる研修時間の設定とOJT
上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	一人ひとりの存在を大切に、子どもに寄り添った指導と安心安全な学校、学級づくりに努める。全教科を通して、人権に対する教師の意識を高められるようにしていく。そのために、校内で職員研修を行うことで、職員の人権意識を高めたい。また、児童会活動の人権福祉委員会を中心に、児童主体の活動を大切に。人権週間では、全学年対応の出前授業を行い、学校全体でテーマに沿って人権について考えていきたい。各学年で地域の福祉施設との交流を行い、障害者や高齢者に対する人権意識も高めたい。
担当	人権福祉教育委員会

豊かな心に関わる本校の状況

【低学年】
 ○全体的に、ルールを守り、学校生活に慣れようとする姿が見られる。2年生は、1年生の模範になろうと張り切っている。
 ●相手の気持ちを考えて、自分の気持ちをはっきりと伝えることに課題がある。

【中学年】
 ○学校の生活に慣れて、友だちを意識して協力していこうという気持ちが見られる。
 ○いいところを見つけたり、困っている子を手伝ったりするなど、友だちとの関わりがとて素直である。
 ●自己主張はするが、そこから発展させることができずに、話合いの場面では話しっぱなしになる場面が見られる。

【高学年】
 ○高学年として積極的に活動しようとする姿が見られる。
 ○教師の働きかけに耳を傾けて物事に取り組もうとする姿勢が見られ、よりよく活動を進めようとする意欲が感じられる。
 ○男女の分け隔てなく普段の学習や生活の中では男女共に協力して取り組もうとする姿が見られる。
 ●教師や他からの働きかけの後に責任のある行動をする児童がいる。
 昨年度の児童の人権福祉委員会より、令和6年度は視覚支援について人権週間を行いたいという希望があった。
 □

今年度の目標

・児童が主体となって活動し、人権週間や出前授業を通して児童の人権意識を高めていく。
 ・研修などを通して、職員の人権意識を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・よこはま子ども会議では、ブロック校と協働しながら、児童が主体となって校内での活動を行っていく。 ・各教科で福祉施設との交流を行い、児童の障害者や高齢者に対する人権意識を高める。 ・職員の人権意識を高めるために、校内で人権研修を行う。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	引き続き、児童の健康課題に向け実施する。縄をテーマに体力を高める運動の良さを体育委員会が中心となり、体を動かす機会を年間を通して定期的に計画していく。個人としてもクラスとしても変容が分かるような手立てを提案していく。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

・休み時間は、外遊びをする児童が多く、体を動かすことが好きな児童が多い。
 ・放課後、体を動かして遊んでいる児童も見られるが、室内で過ごす児童が多い。
 ・地域には、バスケットボール、サッカー、野球、テニス、剣道、体操などのスポーツクラブが多くあり、運動が好きな児童が所属して活動している。
 ・体力の面では、背中を丸めたり、正しい姿勢を持続できなかったりする児童が目につく。また、生活のリズムが不安定で、高学年ほど夜型の傾向が強く、朝、自分で起きられず、朝食抜きの子どもが目立つ。

今年度の目標

児童の健康課題に向け取り組みを検討し、実施する。学校医による喫煙防止教室を実施する。全校で一緒に運動をする機会を得ることは難しいと思うが、体力を高める運動の良さを体育委員会が中心となり、体を動かす機会を定期的に計画していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・体育科の領域、保健体育科の領域ともに、思考判断力を身に付けることを目標として、話合いの仕方やワークシートや作戦シートを活用して、友達の考えから自分の考えを深める態度を育てる。 ・学校医、養護教諭による歯磨き指導を通して、自分の生活の状況を見つめ、学んだことを実践できる力を育む。
下半期	